

カテゴリー	報道日	地区	ニュースソース	助産 News 掲載日
妊娠・分娩	2008年7月2日	日本 東北	共同通信社	2008年7月3日
タイトル	母親の食事リズムが胎児に影響？			

## 母親の食事リズムが胎児に影響？ 東北大小児科がラットで解明

太田英伸東北大助教(小児科学)らのチームは、妊娠中のラットの実験で、母親の食事パターンが、胎児の体内で1日のリズムを刻む生物時計の働きに大きく影響を与える可能性があることを突き止めた。人間でも、妊娠中の母親の規則正しい食事が胎児の順調な成長や発達に重要なことを示す成果という。研究成果は、7月2日、米科学誌*プロスワン*に掲載された。

チームは、妊娠したラットに、12時間ごとに昼夜を作った人工的環境で過ごさせた。通常のラットは夜にえさを食べる「夜型」だが、実験的に、明るい時にしか、えさを与えない「昼型」の食事パターンにしたラットも作り、時計の役割をする遺伝子が刻むリズムを、出産直前の母親と胎児の脳などで調べた。

母親の遺伝子が刻むリズムは、食事パターンにかかわらず「夜型」だったのに、「昼型」の食事パターンにした母ラットの胎児では、リズムが昼型になっていた。

えさを食べることで分泌されるホルモンなどが胎児に伝わり、時計遺伝子の働き方に影響を与えているとみられる。

もともと人間は、昼型の食事パターン。日が昇れば働き、日が沈めば眠る。でも、夜遅くまで携帯メールやテレビゲームに熱中して、学校へ行けなくなる子どもも増えています。そんな子どもを叱った時に、「僕を生んだときのお母さんの生活が悪かったんだ！」と反撃される可能性があります。夜中のコンビニで妊婦さんを見かける今日この頃。子どもの反撃に、「そんなことはない」と胸を張って言えるためにも、お母さん方、生活リズムにはお気をつけください。